

58

病院における医学史展示 ——「養育院・渋沢記念コーナー」の試み

稲松 孝思

東京都健康長寿医療センター

【目的・方法】 各地の大学医学部を中心に、医学史関係の事物の保存や展示が行われている。当、東京都健康長寿医療センターは明治5年に設立された「養育院」を源流とする施設であり、構内に養育院記念中央広場、「養育院本院跡碑」、「渋沢栄一銅像」（板橋区登録文化財）、徳川家光・家斉墓前の石灯籠、ヒポクラテスの木などがある。1階ロビーに山口晃の絵画：養育院幾星霜の図がある。2015年に施設の新築を契機に、これらを整備するとともに、歴史展示なども行う「養育院・渋沢記念コーナー」を開設した。開設以来5年間の運用状況と問題点について報告する。

【養育院・渋沢記念コーナーの概要】 センター入り口円筒建物の2階、売店や食堂の向かい。およそ120m²のスペースに、大型展示棚、パネル14枚、ポスターや写真用大型壁面、建物模型1台。パソコン3台、書棚、小テーブルなど、椅子28席。掲示板などあり。

1) 歴史展示：渋沢栄一揮毫、松平定信、大久保一翁関連資料。病幼院創立意見（大久保忠寛審書調所総裁、安政4年）、明治9年の東京府統計（養育院・東京府病院の決算）、渋沢栄一の養育院公立化への意見書。写真（昭和天皇、皇太子夫妻（現上皇）、GHQ関連、国際老年学会（村上元孝会長）関連資料）。養育院60、70、80、100、120年史。養育院月報。養育院・渋沢栄一関連図書。老人病学教科書。歴史展示パネル（タイトル構成：養育院掟書・養育院とは・江戸の福祉と医療・大久保一翁と渋沢栄一・渋沢栄一の奮闘・安達憲忠ら渋沢を支えた人々・養育院の看護・世界大戦と戦後復興・高齢者医療・福祉の展開・新施設の展開・次代の求め・社会の求めに応じる志など）。歴史関連講演会などのCD、パワーポイント（放映）、櫻園通信（歴史関連解説）配布。

2) 健康情報普及関連資料：貸出書籍（健康・疾病・検査関連、養育院・渋沢栄一関連。貸出業務はボランティア対応）、当院職員出版書籍の紹介、寄贈図書の自由閲覧。講演会などの広報。がん診療関連資料。フレイル、サルコペニアなどの解説。

3) 癒しコーナー：写真（職員、ボランティア、患者様作品）。塗り絵、数独など。軽飲食可能。正月、おひな様、七夕、クリスマスなどの飾り。

4) 診療補助：外来待ち状況連絡ディスプレイ。検査関連解説資料。握力計など。

5) 利用。軽飲食可能としている。外来者の見学は平日診療時間帯のみ。入院患者、面会者は消灯時間まで利用可能。10時～14時ボランティア滞在。

【成績・結論】 利用者数をボランティア滞在時（平日のみ3-4時間）にカウントしているが、平成26年度～30年度の年間延べ数は：16,102人、17,045人、16,446人、18,471人、19,644人であった。平成30年度の利用者数は毎日平均73名～100人であった。

【考察】 病院の歴史を広報するうえで、特定の研究者や見学者、病院職員のみを対象にするのではなく、一般の病院利用者、来院者の休息、読書空間、患者の待ち時間を有意に過ごす場、入院患者の家族や見舞い者との対話の場など、多用途空間として運営することで多くの来院者を得ているものと思われる。運営には、当院老年学情報センター職員、ボランティアグループ（約40名の旧職員、地域住民、郷土史関係者など）が関与している。展示内容、櫻園通信はセンターのホームページに連動させている。施設の設立、運用には元・前理事長の松下正明、井藤英喜、老年医学情報センター司書の宮本孝一らの協力を得ている。